

未来今昔物語

人力発電所の
【縦組版】
真実

光東夢慶

拙作『牛と異星のアルダムラ』も当サイトで公開しております。

縦書き（画像版）版

<http://p.booklog.jp/series/detail/1565>

横書き（テキスト）版

<http://p.booklog.jp/series/detail/1535>

未来今昔物語

人力発電所の真実

今は昔、人類が時間旅行を実現させたばかりのところ――。一部の国では、時間移動調査と称して特別チームを組み、年一、二回、さまざまな時代に隊を送り込んでいた。

調査隊を派遣するたびに大きなニュースになり、世界中の人が注目した。特に歴史上の調査では、成果が見えはじめ、時間移動に関する法律も整いつつあった。

ある国が二〇〇〇年後の未来に調査隊を送り込んだときのこと。当時、未来の調査に関する実績数があまり多くなかったため、政府は大きな成果につながると期待した。

調査隊を乗せた球状の飛行物体が、ある一定の高度ま

で上昇した後、ふっと消える。そして、現地で過ごした調査時間に合わせて戻ってくる。今回の時間移動調査の期間は五日間であった。つまり、隊が出発して五日後に戻ってくることになっている。

五日後——、調査隊が返ってきた。調査機関は隊に報告を求めた。

■隊長の報告

——結論から報告します。未来の人類は機械に支配されています。人口は今よりかなり少ないようです。

——いえ、自然は豊かです。我々の時代よりも豊かな印象を受けました。荒廃しているような地域は一切ありません。ただ、二〇〇〇年後の人類は、いくつもの建物に通い、人型ロボットの監視のもと、牛馬が臼^{うす}を引くように、同じ場所をぐるぐる回っているのです。

——すみません。説明が足りませんでした。建物の中に平たく巨大な円筒形の構造物が設置されていて、そこに七〇センチから一〇〇センチくらいの高さで何十本もの棒が付き出しています。そうで

す。人の腰から臍^{へそ}あたりの高さです。それを人間がつかんで軸を回転させています。人数はひとつの構造物に数百人。二十四時間休むことなく、ぐるぐる回転させています。

——
現地の人を数名確保して質問しましたが、通じないんです……。いいえ、言葉が通じないのでなくて、話がかみ合わないというか、物を知らないというか……。いろいろ質問しましたが、有効な回答はほとんど返ってきませんでした。はい、後で詳細を報告書に記入しておきます。

■技術担当者の報告

——その構造物の大きさは、高さ数メートル、直径は五〇メートルくらいです。回転させるための棒の長さを含めると一五〇メートルくらいになります。無数の人間がその棒をつかんで歩いています……。ええ、その巨大な軸を回転させるためだと思われまます。また、地下にも設備がありそうです。——さらに詳細なデータを得るために、必要な機材を整え、再調査する必要があると思われまます。

—— ええ、数名を確保して翻訳装置の語彙登録を行いました。彼らですが、サンプリングは困難を極めました。彼らの語彙が少ないのです。われわれから見ると、知的レベルも低そうです。おそらく人間同士で複雑なコミュニケーションを取る必要性が低いからだと思います……。ええ、その通りです。機械に管理されているという理由もあるかもしれませぬ。さらに綿密な調査が必要です。

—— 彼らは機械に管理された社会に何ら疑問を持っていません。調査対象として聞き取った誰もが、祖

父母、曾祖父母、さらにその前の代から続いていると答えていました。その管理の仕組みが気になります。

——ええ、もちろん。その時はかなり動揺しましたが、彼らの記憶はきちんと消してあります。心配はありません。

——その構造物を回転させる以外に、産業はないと推測できますが、断言はできません。彼らの衣食住も気になります。再調査の指示をぜひお願いしたいです。

後日、調査隊の報告が公に発表されると、時間移動装置を所有している他の国々も同時代の調査に乗り出した。

世論からは未来の人類を救うべきだという声が高まった。その声は世界中に広がり、どの国も世論に背中を押されるような形で対策を検討しはじめた。

国際機関では、時間移動調査に関する限定的な規約も制定された。

〈人類の行く末が脅かされるなら、未来を変えてもいいはずだ〉

この考え方に異論を唱える者たちはごく少数だった。

そして、時間移動装置の製造を得意とする国々の主導で国際共同開発を行い、人員を大量に輸送できるタイムマシンを用意した。各国で特別部隊が組織され、大量輸送用タイムマシンも各国に配備される。

ついに未来の人類を解放する準備が整った。各国のタイムマシンが未来のほぼ同時刻に移動し、軍隊を投入。奇襲を受けた形になった機械側は目立った抵抗を行わずに制圧されていた。

さらに快進撃を続けた人類側は全てを統括するコン

。コンピューターを特定。この統括コンピューターが地球上に数台設置され、ネットワークで結ばれていたことが判明した。

人類は統括コンピューターの核の部分を全て回収することに成功。未来の人類は救われたと誰もが思った。

ある国の研究室でコンピューターが語り出した。

「この社会はあなた方人類が一万年以上かけてようやく到達した理想です。私を生み出したのも人類、私にプログラムしたのも人類です。一〇〇〇年前人類が危機に陥ったときに生まれた考え方、それは、人類自身がエネルギー

を生み出し、生産活動を全て機械に任せるというものでした。そして、それは成功し、一〇〇〇年間維持してきました。これから、人類がクリーンエネルギーとして電力の確保だけを行い、その他全ての活動を機械に任せるといった点を出力します。詳細な情報が必要な場合にはコマンドを入力してください。一・自然を維持できること。二・人類を平等に管理できること。三・貧富や格差が生まれないこと。四・人間同士の衝突を最小化し、調整を行えること。五・十分な衣食住や医療を提供できること。六・娯楽を提供できること。七・単純だが適度な労働を……」

研究員が落としたクリップボードの音が室内に鳴り響いた。

未来今昔物語 人力発電所の真実【縦組版】

<http://p.booklog.jp/book/98813>

最後までお読みいただきまして誠にありがとうございました。

本作のような短編ではありませんが、
この場をお借りして他の作品も紹介させていただきます。

牛と異星のアルダムラ

縦書き（画像版）版

<http://p.booklog.jp/series/detail/1565>

横書き（テキスト）版

<http://p.booklog.jp/series/detail/1535>

拙作で恐縮ですが、少しでもお楽しみいただけましたらうれしく思います。

著者：慶

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/kohtohmookay/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/98813>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/98813>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのパー（<http://p.booklog.jp/>）

運営会社：株式会社ブックログ